

令和2年度 学校評価総括表

阿波市立伊沢小学校

1 学校教育目標 「知・徳・体の調和を図り、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」 ～「いさわ」のよさを生かした教育の創造～

2 本年度の重点目標

- (1) 授業改善の推進による確かな学力の向上 (2) 学校全体で取り組むポジティブな行動支援(SWPBS)の推進 (3) 児童の健康・安全を守る取組の推進
- (4) 「学校図書館教育」研究の充実 (5) 「学校の在り方」改革・改善の推進

3 本年度の「育てたい子どもの姿」

- (1) 自ら学び、考え、自分のよさを伸ばす子ども (2) 自分も友達も大切に子ども (3) 心も体もたくましい子ども

4 総括表

領域	評価項目	評価の観点	自己評価		次年度への改善点等	学校関係者評価	
			考察(成果と課題)	評価			
学校経営	経営方針	学校経営方針の周知	年度始めに、学校長から出された経営方針を職員で周知するとともに、学校だよりや学年通信で取組を知らせよう努めた。保護者評価も87%以上と高いので、今後も引き続き分かりやすく伝えるよう心がけていく。	A	PTA役員会や懇談会等の機会に説明するだけでなく、学校だよりやホームページを活用し、周知を図る。	A	
	開かれた学校	保護者・地域への情報発信・連携	学年・学校の取組や連絡事項については、懇談や通信、ホームページ・保護者向けメールを活用してこまめに伝えるようにした。自己評価は67%であるが、保護者評価は87%となっているので、よく分かる情報発信となるよう工夫していきたい。コロナ禍でも連携できる方法を模索し、総合的な学習の時間など地域の協力を得て充実した活動を実施することができた。	B	学年だよりやホームページ更新をこまめに行うことにより児童の活動の様子を伝える回数を増やす。	B	
	学級経営	一人一人を大切にす学級経営の実践	「学校に行くのは楽しい」「友達に会うのは楽しい」と答えた児童はそれぞれ86%、97%であり、「学校は安心して生活できる」と答えた保護者は91%であった。さらに職員間で連携をとりつつ児童が安心して生活できるよう努めていく必要がある。	A	児童の実態把握に努め、職員間で常に共通理解を図りながら、組織全体で児童支援に取り組む。	B	B
	教職員の資質向上	授業力・組織力の向上	「授業がよく分かる」の児童評価は85%、保護者評価は87%となっている。一方で職員の自己評価は77%である。自己評価が低い原因は、コロナ禍で1学期が2ヶ月遅れで始まったことや新学習指導要領が始まったことが影響していると推察される。各教科等のねらいをしっかりと把握し、児童の確かな学力を向上させることができるよう職員全体の資質を上げていく必要がある。	B	学力向上実行プランの課題を解消するために、職員研修を行い資質向上を目指す。	B	
	環境整備	安全で美しい学校環境の整備	環境に関する保護者評価は92%、職員評価は83%であった。施設・設備については、定期的に安全点検を実施し修繕等を実施している。さらに点検を実施し、安全で美しい環境整備に努める。	A	安全点検を実施し、危険な箇所の早期改善を図る。	A	
	業務改善	働き方改革の推進	「働き方改革」への理解・協力についての保護者評価は91%と高いが、実践すると答えた職員は71%と低い現状である。コロナ禍における対応が増え課題は多いが、学校支援サポーターの支援も借りながら推進に向けた対応を行った。	B	校内業務の見直しや来年度本格導入される学校業務支援システムをフルに活用して、職員の勤務時間の短縮につなげる。	B	
	学力向上	基礎基本の定着学習意欲	「授業中先生や友達の話をしている」と答えた児童は90%であるが、「分からないことは質問している」には78%となっている。「読書が好きだ」と答えた児童は80%を超えている。学校図書館を利用・活用し、言語能力を高めることで学習内容の定着を図る研究を進める。	B	家庭学習の習慣がついている児童は94%と高いので、学習内容が定着するよう課題を工夫する。	B	
心の教育(人権教育)	人権尊重精神の育成いじめ防止	「友達に会うのは楽しい」97%、「友達を大切にしている」94%と児童評価は高くなっている。「仲良く助け合って活動している」に対する職員評価は87%、保護者評価は87%であった。児童のいじめやアンケート等から実態を把握し、職員間で毎週行っている「寄り添う会」で共通理解を図りながら人権教育を確かなものにしていく。	A	いじめ防止子ども委員会の活動を活発化するとともに、アンケート等からの情報を職員間で共有し、学校全体でいじめのない学校づくりに努める。	A		

教育活動	生徒指導	望ましい生活習慣の育成	「きまりを守っている」についての児童評価は88%、保護者評価81%である。あいさつについても「きちんとしている」と答えている児童は9割を超えている。コロナ禍で家にいる時間が増えたため、インターネットによる買い物トラブルやゲームの課金も増えている。インターネットの利用時間も長くなる傾向にあることから、情報モラルを身に付けるとともに、賢い消費者として正しい知識を身に付けるよう努める。	B	B	情報モラル教育や消費者教育について尚一層充実させていく必要がある。	B	B
	健康・体力づくり	基本的な生活習慣の確立	体育の時間以外にも外遊びをしている児童が多く、体力向上につながっていると思われる。一方、家に居る時間が増えたためインターネット利用が増えている傾向があり、SNS上のトラブルやネット依存、それに伴う睡眠不足が心配である。	B		マラソンやなわとびカードなどを工夫し、児童の運動意欲を高める。また、懇談などの機会に望ましい生活習慣について保護者に伝えていく。	B	
	家庭・地域教育	家庭・地域教育力の向上	コロナ禍ということもあり「学校教育活動やPTA活動に参加・協力しているか」に対して保護者評価は75%と低いが、職員評価は90%と高くなっている。分散参観日等の学校行事への参加率が高いことや、交通安全指導にも積極的に協力し児童の安全を見守ってくれている。そのため職員は地域の教育力が高いと認識している。	B		保護者や地域と課題を共有する場を設定し、協力しながら課題解決に取り組んでいく。	B	

### 5 学校評議員からのご意見

- ・子どもたちが「学校に行くのが楽しい」という割合が高い。保護者のアンケートの評価が全般的に高い。
- ・一人一台パソコンやプログラミング教育などが始まって大変苦労されているのでは。何か始めるとなると働き方改革が進まなくなる。なかなか難しいとことであるが、軽減できるような取り組みはできないか模索してほしい。
- ・コロナ禍で教育課程の消化にとっても苦労されたのではないか。
- ・「分かりやすい授業が展開できている」という教員の自己評価が低いのは、先生方の向上心からくる意識の表れである。
- ・コロナ禍の今だからできることをやっていただいている。今後も続けて欲しい。
- ・コロナ禍だからICTが進んだという側面もある。教育環境が整ったのでは。
- ・綺麗な教育環境で過ごせている。安全点検もきちんと行えている。保護者の評価も高い。
- ・「読書が好き」という割合が高い。来年度の研究大会に向けても頑張ってもらいたい。
- ・正面玄関口の道路も広がり、外のトイレも新築され環境が良くなった。
- ・子ども達が喜んで学校に来ている。そうでない子どもにも目を向けてあげて欲しい。
- ・全く朝食を食べていない子どもがいないことは、素晴らしい。
- ・人懐っこい子どもが多い。学校に来たら必ず声をかけてくれる。子どもが本来持っている子どもらしさが見えることがうれしい。
- ・保護者の協力がある。PTCAという形で働き方改革ができたと思う。
- ・高速道路の渡り初めは、6年生にとって貴重な体験になったのではないかなと思う。